

憲法さんさん

発行 憲法を生かす会・灘 ニュース

2026年1月号
通刊 243号 改題1号
神戸市灘区天城通3-5-19
ニュース編集委員会
連絡先 090・9093・5867(金丸)
kanamaru@rokko-mcoop.or.jp

意気高く、再スタート

憲法を生かす会・灘 事務局長 金丸正樹

私たち憲法を生かす会・灘は昨年11月3日、灘区文化センターで久しぶりの総会を開きました。元もとの発足は2001年に、それまで活動していた「灘区憲法を守る会」の流れをトランプ大統領や高市政権の

憲法をないがしろにする言動～に際して、いま改めて憲法を守り暮らしに生かす運動を大きくしようと、一年前から準備して再スタートしたものです。

総会の第一部は川井田倫明さんの司会で進行し、会則の改定や新役員の選出、当面の活動方針を決定しました。(別記)

そして第二部では記念講演として高校生平和大使の原野蓉子さん(神戸女学院高校2年)から「核兵器廃絶と被爆継承の取り組み」についてお話



がありました。

原野さんは「私の高祖母は疎開先から神戸に戻る際、原爆投下まもない広島に入市して被爆、3年後に子どもを亡くしました。」「日本被団協が各兵器の使用禁止、核廃絶を求めて自らの苦しい体験を訴え続けたことがノーベル平和賞につながりました。若い世代が継承することが高祖母たちの思いだと感じました」と述べられました。



議長の川井田さん



左から鳴海さん、高校生平和大使の2人、今村さん

参加者は約30人でしたが、アンケートには「若い世代の方からたくさん刺激を受けました」「今日のお話を聞いて、自分のできることをやっていきたいと思いました」「毎年11月3日に何か行うことにすればよい」などの感想が寄せられました。

この総会を踏まえて、今後具体的な行動を起こしていきたいと思ひます、ぜひご賛同いただき、可能な行動へのご参加をお願いいたします。(後述の〈当面の行動スケジュール〉参照)

【新役員体制(敬称略)】

- 〈代表委員〉 今村稔、鳴海妥 井上由紀子(ニュース編集長兼) 〈会計監査〉 三木平
- 〈事務局長〉 金丸正樹 〈事務局次長〉 川井田倫明、田上美紀、野間美幸、羽田野祐司
- 〈事務局員〉 大倉均、塩浜勇、中村伸夫 〈運営委員〉 井上明子、上野恵司、小林るみ子、山田誠一
- 〈アドバイザー〉 立川重則、飛田雄一、吉田俊弘



日本国憲法 80 年

5月3日は憲法記念日ですが、正しくは日本国憲法施行記念日です。施行半年前の1946年11月3日に公布(いわば御披露目)され、時の首相吉田茂は、「新憲法を大事にして新日本を築いて行こう、という声明をだしています。

公布から施行の間の半年間は、大衆運動から政治の仕組みまで上を下への大騒ぎでした。日毎に何百何十という勢いで労働組合がつくられ、その勢いは47年の2・1スト(連合軍司令官マッカーサーによって禁止)にまで燃え盛りました。政治の面でも、教育基本法(47年3月)、労働基準法(47年4月)、地方自治法(47年4月)等が制定され、6・3制の学校制度が制定されました。

当時、小学校(国民学校が変わったばかり)5年生だった私自身のことをいえば、担任の教師は、綴り方の時間に「新憲法が出来たのだから、必ず触れるように」と指示していました。数か月前には生徒を校外の公園に連れて行って「松ぼっくりを集めて来い、それを積み上げろ、それに火をつけろ」と命令して、「マッカーサー(松笠)を焼いた」と喜んでいた予科練帰りの教師がです。軽薄の感なきにしもあらずですが、それほど世の中「新憲法、新憲法」でした。

★平和と民主主義への期待の中で

本年は日本国憲法の公布(46年11月)、施行(47年5月)から80年にあたる年です。

80年前、戦争の惨禍と根底からの生活破壊を味わっただけに、多くの国民は憲法の公布・施行には間違いのない平和と民主主義の前進を期待しました。憲法は豊かな実りを約束する美田であり、国民はこれを大事に守り、発展させなければならない

憲法を生かす会・灘 代表委員 今村 稔

と誓いました。

その後80年、改憲を目指す反動陣営の執拗な攻撃、押し返そうと努めた反撃なども続きますが、大局的には私たちが後退を強いられ、美田とはいえない惨状を呈しています。石やカワラケなどが投げ込まれ、流れ込み、あろうことか「核兵器を持つべきだ」という荒岩が投げ込まれようとしています。

★憲法80年という節目の年です

こんな状態を座視していることはできません。荒岩を投げ込ませても、転がり込ませても、また「細石」を巖にしてもなりません。

高市首相やそれを取り巻く勢力の騒ぎをストップさせなければなりません。力を合わせて丹念に大石・小石やゴミやカワラケを取り除き、片付けていかなければなりません。一番大きな問題は、私たちの力がかつてのように十分には働いてはいないということではないでしょうか。仲間が頻繁に集って考えを交わし合うこと、学び合うこと、そしてそこに人間らしい生き甲斐を見出すこと、豊かに育てること…などを後退させてはいないでしょうか。まどろんではないでしょうか。

この世の中を改善する力、変えていく力は、私たちの人間らしさを追求する思考と行動にしかないのです。結び合う腕の中にしかないのです。

80年の歴史を重ねた日本国憲法が輝きと求心力を取り戻すには、私たち自身の中にある力に頼るしかないのです。結び合う腕を流れる血に頼るしかないのです。

2026年を日本国憲法を再生させる年としましょう。日本国憲法を担う一人一人が旧年以上に逞しく成長する年にしましょう。

徒・然・広・場

～鳴海 ^{やし} 妥のよもやま話～

その① 三国志にはまる

歴史小説が好きな友人のおかげで「三国志」を読みだしたらはまってしまった。北方謙三の小説「三国志」。これが無類に面白くて、文庫本で13巻あるうちの8巻目にきたところだ。有名な「赤壁の戦い」も終わった。知将周瑜(しゅうゆ)は白皙の美男子として描かれている。5巻目にしてようやく諸葛亮孔明が登場してくる。

僕のイメージでは劉備は良い奴、曹操は悪者だったのだが、読み進めてゆくうちに変わっていった。曹操は武力、知略にすぐれ、事に当たっては勇猛果敢な武将として描かれている。織田信長に似ているけれどもっと柄が大きいように思う。孔明も頭脳明晰なだけのやさおとこではない。戦場を馬で駆け回るくらいのことはするのですよ。

誰に肩入れして物語を編むのか、誰が書いたもので読むのかで、人物像も物語の見方も変わってくるのだなあ。歴史や社会の見方も、どんな視点で見るとするのか、誰の側にたつのかで変わってくると思うのですね。

お互いの思惑と戦いがときに交錯しながら歴史が動いてゆく様子を、北方は誰に偏るでもなく、あたかもチェスの駒を一つずつ動かしてゆくように書き進めていく。

登場する武将、勇者たちそれぞれの性格、器量、思惑などがしっかり描き分けられているので、それぞれの人物像が明確にたちあがってくる。作家の力量というものだ。

そこでここまで読んできて、おもな登場人物の役を日本の俳優がするとすれば誰がふさわしいか考えてみた。ボクの中では曹操は内野聖陽、関羽は阿部寛で決まり。劉備は人格がつかみきれなくて人選が難しいのだが、故中村勘三郎なんかどうだろう。薄命美男の知将周瑜は吉沢亮にしてみました。孔明は抜群に頭が切れて胆力もある…むずかしい。とにかく主な役どころでも沢山の人物が出てくるので、物語を知ってる人が集まってこの俳優がいい、いやあっちだとか言いあうのも楽しいかもしれない。

まずはこの小説を紹介してくれた友人に話してみようっと。

アクション ① やります！「3の日行動」

「3の日行動」とは、「毎月3日、2015年の安保関連法の成立に反対する形で始まり、作家の澤地久枝さんらが呼びかけ、全国的に広がった市民参加型のスタンディング行動です。

◎とき 2月3日(火)午後5時30分～6時30分

◎ところ JR 六甲道駅北ロータリー

◎行動 スタンディングでアピールします



□プラカードなどは用意しますが、趣旨に沿った内容の自家製の持ち込み歓迎です

□上記のうち可能な時間だけの参加も OK です

□雨天中止 □今後3月4月と、いずれも3日、定点定時に行動します(5月は別途ご案内)

アクション ② 灘区「戦跡ウォーク」

灘区内に残る戦跡を歩いて巡り、歴史に学ぶ行動です。

実施期日は、今春を予定しており、具体化次第ご案内します。



「ルー エッセイ

野間 美幸

憲法について思うこと

憲法については、これまで勉強会などに参加して、日本の憲法は「非戦・非武装」や「基本的人権の尊重」などを定めている、世界の中でも大変素晴らしいものであることを学んできました。

しかし、その憲法を変えようという動きがあり、とても危機感を感じています。

近年、世界のあちこちで戦争が起きており、日本でも防衛費の割合が増え、軍備の増強が進められています。それでも現在の憲法があることで歯止めがかかっている部分が多いと思うので、憲法を護っていくことはとても大事だと思います。

また、身近なところでも、王子公園再整備で公園の一部が大学に売却され、それに伴いプールが廃止されたり、災害時の避難所が確保されなくなるなど、住民にとって不利益がたくさん起こってきています。現在、王子公園市民ミーティングのメンバーの方々等が裁判を起こし、住民の立場を訴えていただいています。基本的人権の尊重を謳っている現在の憲法があることが、住民側にとっての大きな力になっているのではないかと思います。

今後、憲法を生かす会の活動を行なっていく中で、憲法について深く学んでいければと思います。

田中 熙巳講演会

てるみ

日本被団協結成70年。その歩みを次の世代へ
～核も戦争もない世界を求めて～

日時 2月11日(水・休)14時～

会場 神戸市立婦人会館5F 大会議室「さくら」
入場無料 定員 170名

要事前申し込み 090-7759-5964(中村)

てるみ

田中 熙巳さんプロフィール

中学1年の時、長崎で被爆。日本被団協代表委員。
ノーベル平和賞授賞式で受賞講演。国連軍縮特別
総会をはじめ内外で被爆の実相証言活動を継続。

お知らせ

水野晶子のドキュメンタリー朗読会

社会を見つめ、戦争と平和を語るオリジナル朗読

第1部 増田善信101歳の遺言「天気予報と戦争」
第2部 田辺聖子の獄中日記「十八歳の日の記録」

日時 3月15日(日)14時～

会場 神戸学生青年センターウエスト100(本館)
2F ホール

参加費 3000円 障がい者・高校生以下2500円

申し込み 090-1914-4907(中島 淳)
090-3874-5835(井上由紀子)

主催 神戸芝居カーニバル実行委員会

活動の財政づくりにご協力ください

憲法を生かす会・灘は、任意の団体で、特定のスポンサーを持ちません。

文字どおり「憲法を暮らしに生かす」という趣旨に賛同いただける市民のみなさんのご寄付で活動費用を賄っています。

よろしければこのニュースに同封の郵便振替用紙で、可能な限りでのご寄付をお願いいたします。



イラスト 奥田秋穂

編集後記

リニューアル後初のニュースをお届けします。名称「憲法さんさん」はご応募いただいた中から「憲法さん」って親しみやすく、また憲法が燦燦と輝いてほしいとの願いなど、わかりやすく、明るくていいなと採用させていただきました。本紙がこの名称のように親しんで読んでいただけたら嬉しいです。

誇らしい日本の憲法が厳しい北風にさらされている今、吹き飛ばされないように守っていかねばです。ニューフェイスの「憲法さんさん」をよろしく願います。ご投稿もお待ちします。 井上由紀子